

つどい Walker VOL.2 ～12 月つどい in 滋賀「障害」

皆さんこんにちは！

広島大学 5 年の今田紘一郎と、北海道大学 3 年の仲谷美憂と、順天堂大学 5 年の田中利昌です。

今回は昨年の 12/22-23 に滋賀県で開催された「第 39 回民医連の医療と研修を考える医学生をつどい 12 月つどい」について報告致します。

<39 つどい年間獲得目標>

- ①民医連の理念・実践から、社会と医療をつなぐ大切さを理解しよう
- ②互いに刺激しあい、共に良い医療を実践していく仲間を作ろう
- ③今自分に何が出来るか、また将来医師として何が出来るか考えよう
- ④すべてのいのちが大切にされる社会を作る担い手になろう

<12 月つどい獲得目標>

- ①現代の日本において障害がどのように捉えられているのか知ろう
- ②障害者の生きづらさを人権という視点で考えよう
- ③障害者の人権問題を社会の問題として捉えよう
- ④障害のあるなしにかかわらず生きやすい社会のためにできることからやってみよう



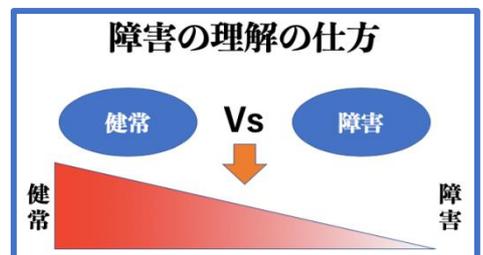
1 日目 学習企画



1 日目の学習企画では、佛教大学社会福祉学部教授の武内一先生から、「障害とは何か」というテーマでご講演いただきました。まずは障害という概念に対して、ICF(国際障害分類)と障害者権利条約、更には Johan Galtung 氏が提唱した「構造的暴力」の内容にも触れながら迫っていき、続いて障害に関する一例として出生前診断や強制不妊手術の問題について話は広がりました。ここでは健常と障害の二者を別物として捉えるのではなく、継ぎ目のないシームレスなものとして考える、健常の延長として障害があるという見方を学びました。他に

講師：武内一 教授 も、発達に関して素因を持つ「凸凹」と呼ばれる人々を、その人を取り巻く環境や我々の勝手な捉え方により、より高度な「障害」に仕立て上げてしまわないよう、そして結果として社会の中で孤立してしまう状況に陥れてしまわぬよう、意識することの大切さを学びました。

講演の終盤では、「いのち」とは障害の有無/軽重などで揺らぐことのない、絶対的なものであることを確認した上で、自分、相手、そしてすべての人の「いのち」を輝かせ、生きる意欲や生き甲斐を湧き立たせるために、「こころ」「からだ」「知性」「感覚」といった意識を持ち続けることの大切さが説かれました。



2日目 研修企画



講師：原田真吾 医師

1-4年生企では、香川民医連 高松平和病院の原田真吾医師からご講演いただきました。医学生の運動が卒後ローテート研修の義務化に繋がったお話は、普段様々な活動を頑張っている学生には大変大きな励みになり、また多くの学生にとって何か行動を起こそうという勇気に繋がったのではないのでしょうか。また、ご講演のなかで「医学生だからこそできることがある」というお話が SGD の場で非常に盛りがりました。医学生という立場を生かして発信できることはないだろうか、その立場の強みは何だろうかなど、改めて自分の今の状況について見つめ直すことができました。また、その内容から発展して、今の自分が受けている医学教育・実習に対して思うことや、その他課外活動において今自分は何ができるのかなどと考える良いきっかけとなりました。

5-6年生企画では、全日本民医連副会長の眞木高之医師を講師としてお迎えし、「皆さんはどんな医師になりたいですか？」というタイトルで講演をしていただきました。先生の理想の医師像が、これまでのご自身の経験のなかからどう生まれ、どう深まってきたのか、お話ししていただき、これから研修を間近に控えた5,6年生にとっては、とても参考になりました。また、民医連をはじめとした中小規模の病院の特徴や



講師：眞木高之 医師

役割、またそこで働く医師に求められるものについて も触れていただきました。講演を通じて、差別をしないということや断らないといった先生のポリシーと、どのようにしてそれらが培われたのか学ぶことができました。

講演後は、SGD を行い、なかなか大学では話せない、それぞれの学生の理想の医師像や、初期研修を行う意義、また、研修を通じて何を学びたいかといったことまで、自由に意見交換をしました。



さて、39 つどいも 3 月つどいを残すのみとなりました。

泣いても笑っても今年度最後のつどい、「労働者の健康」というテーマで、すべての人が大切にされる社会に向かってしっかりと学習と交流をしていきましょう！

3/21-23、大阪でお待ちしております。

次回 3 月つどい！ テーマ：「労働者の健康」

3 月 21 日（木・祝）～23 日（土）

大阪府 ホテルフクラシア大阪ベイ

